



SDGsアクション in しが

《大原悠人 - 近江楽座「政所茶レン茶"ー」》

楽しいことを掘り下げよう 地域活性化の新しい形！



「がんばっていると地元の方が認めてくれる」と話す大原さん。「政所が好き、地元の人と仲良くなれるのが楽しい！」茶レン茶"ー"として政所を堪能しているのが伝わってくる。

楽しさが生み出す住み続けられるまちづくり

「参加したきっかけは、楽しそうだったから」と語るのは滋賀県立大学2回生の大原悠斗さん。東近江市政所町でお茶作りを通して地域活性化にチャレンジしている。

最初はサークル感覚で参加していた。それが政所に通ううち地元の人と仲良くなり、どんどんこの場所が好きになった。新しい人間関係が築けることが新鮮で続けるほどおもしろいと感じている。楽しいからしんどい作業でも頑張れる。活動していく中で、人が生きていくためには住み続けられるまちづくりが必要だと気が付いた。でも「世の中をよくするために頑張る」は堅苦しい。楽しくて頑張った結果、社会がよくなるというスタンスがしっくりくる。

今年から活動の代表になった大原さん。政所茶が宇治や静岡などのブランド茶と比べても遜色ないのに価格が低い現状をもったいないと感じている。今後は政所茶をたくさんの人に知ってもらうため先頭に立って提案できるような発信をしていきたい。卒業後も活動に関わっていくために学生の時とは違う、社会人からのアプローチも模索中だ。「しなければならない」ではなく楽しんで続ける、シンプルで柔軟な取組みが住み続けられるまちづくりの核になる試みが始まっている。



活動場所である政所茶の茶畑。畑には自分たちで刈り取ったススキが敷かれている。

